

### 「韓国開化期におけるキリスト教出版の展開」

91303 李雲山

韓国は高麗時代に始まる古い出版の歴史を誇っている。とくに金属活字の開発においては世界で最も先行したことが認められている。李朝時代には、日本は李朝政府に朝鮮大蔵経の給付をしばしば依頼強要し、豊臣秀吉の朝鮮侵略に際しては、朝鮮金属活字や、多くの版本を略奪するとともに、印刷技術者を連行し、日本国内に活字印刷技術の移植をはかったことが知られている。

このように韓国における印刷・出版の歴史は古いが、そうした伝統のある出版活動が韓国の開国期にどのような状況にあり、またそれが日本帝国主義の日韓併合によってどのような影響を受けたかについてはこれまでほとんど研究がなされていない。本論文はそうした韓国開化期における出版開発の事情に光を当てるため、その当時出版開発に極めて大きな影響を及ぼしたキリスト教宣教師の出版活動を取り上げその史実を明らかにすると共に、その果たした歴史的役割について評価を下すことを目的としている。

第1章では開国（1876年）前後の韓国における政治状況と全般的出版事情を観察している。とくに開国直後の韓国では政府と民間の双方に出版開発への活動な動きが見られたこと、および、キリスト教（本論文ではプロテスタントを意味している）と並行して宣教活動を行っていたカトリックおよび聖公会の動きについて注意が払われている。

第2章では宣教師入国以前に満州・日本等で行われた宣教のための準備活動にふれている。とくにその中心であった聖書翻訳出版活動をめぐる訪日使節李授延や韓国留学生たちの関わりに注目している。

第3章は韓国に入国したアメリカの宣教師たちの1880年代ないし90年代韓国における宣教活動を、聖書およびその他伝道文書の翻訳印刷、出版を中心に観察している。各教派の協力と競争の下に展開したそうした“出版”活動の中心となったのは三つの出版機関、朝鮮聖教書会、三文出版所、メソジスト教書会であった。

第4章では1890年代以降、次々に定着したキリスト教出版について考察している。そうした大衆向け出版の中心になったものの一例は賛美歌集と種々のキリスト教新聞であった。

第5章はキリスト教出版が韓国出版に与えた影響について考察している。キリスト教出版の中心人物として精力的に活動した宣教師アンダウッドらの開発した文書普及方法のうち主要なものは勸書人（巡回書籍販売業者）と書庫（書店）である。キリスト教文書の販売を目的としてこれらの手段はやがて一般書籍の販売にその対象が拡大され、それによって韓国出版販売の発展的段階への萌芽となる様相を示しつつあった。しかし、そうした萌芽は残念ながら1910年を劃期とする。日帝時代への突入によって、あえなく成長の芽を摘まれてしまったのである。依頼本論文における観察を通じて、注目すべき点は以下の4つである。

(1)第一はキリスト教を含む西洋文明に対する韓国側の関心の高さである。

本論文の研究対象である1884年から1910年以前の段階ですでにキリスト教宣教の準備は満州、日本、アメリカで着実に進められていた。そうした準備段階での接触を通じて宣教師たちは韓国人の真摯な姿勢に感銘を受け、宣教の成功への確信を深めたのであった。1880年代の末から宣教師たちが続々と韓国に入国し、積極的に宣教をするようになった時、韓国人の示したそうしたキリスト教への情熱の結果、活発な翻訳・出版活動が生み出されることになったのである。

(2)第二は聖書の翻訳・出版を中心としたキリスト教出版活動が韓国の近代化に果たした意味の大きさである。宣教師と韓国人クリスチャンの協力によって勧められ他聖書翻訳・出版の仕事は、単にキリスト教宣教活動に止まるものではなく、近代韓国語の発展に影響を与えるなど、開化全般に大きな関連をもっていたし、より直接的には韓国における近代出版の発展に糸口を与えるものであった。

(3)第三はキリスト教宣教師に対する韓国政府のアンビバレンツな立場である。

1898年キリスト教が解禁されるまで、宣教師たちはオープンな宣教活動はできず、表向きは医療・教育活動を中心とし、また翻訳出版の準備を進めていた。解禁後も政府がキリスト教会に期待したのは宣教よりもやはり医療、教育、出版などの近代化の推進に役立つ種類の活動であった。だからこの時期のキリスト教出版の発展は「福音と文化」「宣教と開化」という対立する立場と目標の釣り合いの上で初めて可能であったのである。

(4)第四は韓国における出版販売システムの定立においてキリスト教出版の果たした先駆適役割りである。古い出版の歴史を持ちながら王室による管刻を中心としたため民間出版社の発展がおくれ、全国的な販売機公が成立していなかったいなかった19世紀後半の韓国にキリスト教出版が開発した流通手段は、以後韓国の近代的出版機構の流通部門に転化しうる、先駆的存在であった。そうした原始的出版流通システムが日帝進出によりどのようにして発展の芽をつみとられるに至ったかは、さらに追及されるべき課題である。